

教諭・講師に期待される役割と具体的な行動例（広島県）

【 期待される役割 】

- 教科指導、生徒指導等に関する専門的知識・技能を有し、教科指導や生徒指導、学級経営等を適切に行うことができる。
- 組織の一員として、学校経営目標の達成に向け、担当する校務を適切に遂行することができる。

【 求められる教職員像 】

1 普遍的な事項

- ① 高い倫理観と豊かな人間性をもっている。
 - 教諭としての職責や義務を自覚して職務に取り組んでいる。
 - 法令等を遵守するとともに、誠実かつ真摯な態度で職務に取り組んでいる。
 - 人との関わりを大切にし、円滑な人間関係を築いている。
- ② 子どもに対する教育的愛情と教育に対する使命感をもっている。
 - 児童生徒の成長と発達を理解し、悩みや思いを受けとめて指導している。
 - 困難な課題に対しても安易に回避することなく、責任をもって取り組んでいる。
 - 保護者等からの意見等に対して、誠実に対応している。
- ③ 専門性を発揮し、的確に職務を遂行できる。
 - 教科指導、生徒指導等に関して専門的な知識・技能を有し、教科指導等に活かしている。
 - 担当する校務分掌を適切に遂行している。
 - 学校経営目標や児童生徒の実態等を踏まえ、学級経営や校務分掌等の計画を作成し指導している。
 - 計画性をもって正確かつ迅速に職務を遂行している。
- ④ 社会や子どもの変化に柔軟に対応できる。
 - 児童生徒理解のための情報収集を積極的に行うとともに、指導方法の工夫改善を行っている。
 - 地域住民や保護者、児童生徒等の学校に対する要望等を把握し、適切に対応している。
 - 予想されるトラブルを想定し、未然防止のための工夫や準備を行っている。

【 特に求められる事項 】

- ① 確かな授業力を身に付けている。
 - 児童生徒の実態を踏まえ、年間指導計画や各単元の学習指導計画、学習指導案を作成している。
 - 児童生徒の学習状況に応じて、学習指導案等に沿った授業を展開し、指導のねらいを達成している。
 - 多様な評価方法を適切に活用し、児童生徒一人一人の学習状況を把握し、指導に活かしている。
- ② 豊かなコミュニケーション能力を有している。
 - 相手や場面に応じた正しい言葉遣いで簡潔に説明したり、指示したりしている。
 - 日ごろから児童生徒への指導方針や状況等について、保護者等に説明するなど、保護者等と十分連携を図っている。
 - 児童生徒の考えや意見を受け止めつつ、教える内容を児童生徒に分かりやすく伝えている。
 - 他者の意見や考え方も柔軟に受け入れ、職務の遂行に活かしている。
- ③ 新たなものに積極的に挑戦する意欲をもっている。
 - 学校経営目標の実現に向け、担当する校務分掌等について、改善の意識をもって参画している。
 - 児童生徒の実態を踏まえ、個性や能力の伸長を図るため、意欲をもって指導に当たっている。
 - 新たな課題や困難な課題にも常に意欲的に取り組み、解決を図ろうとしている。
 - 研修の機会等を積極的に活用し、新たに必要とされる知識や技能の習得に取り組んでいる。
- ④ 他の教職員と連携・協働し、組織的に職務を遂行できる。
 - 担当する校務について、年間計画に基づき、主任等と連携を図りながら計画的に遂行している。
 - 職務を遂行する上で生じた課題等について、時機を逸することなく管理職や主任等に報告、連絡及び相談している。
 - 他の教職員と積極的にコミュニケーションを図るとともに、相談に気軽に応じている。
 - 自らの実践や研修成果を積極的に示し、改善に活かしている。

【 教師観の形成 】

1 学校生活から形成された教師像

教師観形成にはそれまでの学校生活を通して出会った教師の影響が多分にあると思われる。特に、目標とする教師像については、児童生徒の立場から好印象を持った教師の影響を受けていることは容易に想像できよう。ここでは、児童生徒の立場から、どのような教師と出会い、どのような印象を持ったのか、また 職業としての教師をどのような存在として捉えているのか、という点を明らかにすることで、教師」のあり方を考察する。

(1) 好感を持つ教師との出会い：「過去に『いいな』と思った学校の先生はいましたか」(非教職志望者)

- 小学校段階では、80.0% (72.4%)、中学校段階では70.7% (63.9%)、高等学校段階では84.3% (74.6%) が「いた」と回答。教職志望の方が非教職志望に比べ、過去に「いいな」と思った教師と出会っている割合が高い。

教職志望が「いいな」と思った教師とは具体的にどのような教師だったのか学校段階別に見ていく。調査票中の「(いいなと思った) その先生はどんな先生でしたか。特に当てはまる項目1つに、各学校段階ごとに (中略) お答えください」1) という項目の調査結果を利用する (カッコ内はその割合)。

i 小学校は児童と向き合える教師

- 子どもの話をきちんと聞いてくれる先生 (25.8%)
- ユーモアがある先生 (21.4%)
- いけないことをきちんと叱ってくれる先生 (15.3%)
- 休み時間や放課後一緒に遊んでくれる先生 (13.9%)

ii 中学校は思春期の生徒をコントロールできる教師

- 子どもの話をきちんと聞いてくれる先生 (16.4%)
- ユーモアがある先生 (16.4%)
- 子どもの自主性を尊重してくれる先生 (12.6%)
- 生き方のモデルになるような先生 (10.3%)

iii 高校は進路選択の指標になる教師

- 幅広い知識を持っている先生 (22.6%)
- 勉強で分からないことがあるとわかるまで教えてくれる先生 (9.6%)
- 生き方のモデルになるような先生 (11.6%)

(2) 求められる教師像

i 性別：どちらの性別の教師がいいと思うかを質問

- 小学校では、女性教員への支持が6割を越える
- 中学・高等学校では男性教員への支持が7~8割となっている。

ii 経験：「若手の先生」と「ベテランの先生」ではどちらがいいと思うか

- 小学校では若手の教師が支持
- 中学・高等学校と進むにつれ次第にベテランの教師が支持
 - ・ 中学・高等学校では教科指導は勿論のこと、生徒の進路決定にまで深く関わることから、より人生経験の豊富なベテラン教師が支持されている。

iii 指導タイプ

- 小学校における教師の役割を教科指導よりも生活指導が中心と考えられている
- 中学校では教科指導・生活指導が半々でありバランスよくどちらの指導もなされている
- 高等学校段階では、生活指導よりも教科指導を重視している
 - ・ 学生にとって高等学校が受験を意識する場であることを表していると言えよう。

iv 性格

- 「厳しい」教師よりも「やさしい」教師を支持する回答が多い。
 - ・ 小学校段階での割合が高く、教職志望の学生が小学校における教師の役割を他の学校段階と若干異なるものと認識していることがうかがえる。
 - ・ 中学校・高等学校では一定数、厳しい教師を支持する群が存在する (中学校50.4%、高等学校38.0%)。これは不安定な思春期をある程度の厳しさをもって指導することの有用性を認識しているものと考えられる。

2 実習経験による教師像の変化

(1) 教師の人間性

i 先生は愛情豊かな人が多い

- 「とてもそう思う」「まあそう思う」と答えた割合が、それぞれ実習経験者64.9%、実習未経験者38.1%

ii 先生は、人間的に優れた人が多い

- 回答傾向も同様である。

教職志望は彼ら自身が教師になった場合に人間的魅力のある教師になれる「自信がある」（「とても自信がある」＋「まあまあ自信がある」）の割合は、教育実習前の37.2%から実習後には48.9%と増えている。

(2) 教師の指導力

i 教科指導

- 「わかりやすい授業をする」ことに自信を持っている39.4%（48.5%）
- 「幅広い知識を持つ」ことに自信を持っている31.9%（36.2%）

ii 子ども理解

- 「子どもの気持ちを理解することに自信がある」68.6%
 - ・ 「子どもの気持ちを理解し、子どもと信頼関係を築こうとする姿勢がある者だけが教師になるべきだ」という意見も多かった。
- 「生徒の中には大人や教師への不信感を強く持っている人も多く、その不信感から心を開かせ信頼関係を築くのは、言葉でいうよりも何倍もの忍耐と努力が必要。しかし、その信頼関係を築いていくことが教師の醍醐味である」（高校教諭・女性）
- 「基本的に生徒は信頼すべき存在です。心に色々ある生徒でも時間をかけて誠実に接していけばわかりあえるものです。もしそのことが信じられなくなったら、その教師はやめるべきなのでしょう」（中学教諭・男性）

(3) 教師文化の継承

- i パーソナリティレベルでは、「教師は一生勉強を続けられる職業である」ことに集中していたことから、「勤勉さ」という教師文化は既に獲得されているとも言える。
- ii 「教師は『専門的知識』よりも『優れた人間性』を必要とする職業だと思う」と答えた割合が85.7%にのぼることからも、知識量や指導力といった教職の専門性よりも、その人間性に教職としてのあり方を求める姿が浮き彫りとなった。